



# 新美南吉生誕100年通信

NIIMI NANKICHI 100th Anniversary Year

新美南吉100歳の誕生日まであと2年

発行 新美南吉生誕100年記念事業実行委員会 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 新美南吉記念館内 **南吉生誕100年**



## 新美南吉 100歳まであと2年

98回目の誕生日に「あつまろう みんなの南吉展」開催

- 1 「ごんぎつね」にちなんだウナギのつかみどり
- 2 きりんの会の大型紙芝居「牛をつないだ樺の木」
- 3 98歳の誕生日を記念した限定缶バッジづくり
- 4 南吉童話をイメージした万華鏡の展示
- 5 よろず劇場「とんがらし」の腹話術

※市民・企業等による自主事業の募集を始めました。二・三頁をご覧ください。

願っています。

二年後の生誕百年では、少しでも多くの方が、「ごんぎつねの会」のように南吉を表現する側で記念事業に参加していただけることを願っています。

当日は、「ごんぎつねの会」に所属するグループや個人が、人形劇、読み聞かせ、紙芝居、歌、工芸などそれぞれの分野で新美南吉の世界を表現しました。

「あつまろう みんなの南吉展」は、南吉生誕八十一年の平成五年、記念館開館を翌年にひかえ、南吉を通じて市民の活動を盛り上げようと始まったイベントです。その後、主催メンバーを母体に新美南吉事業推進協議会「ごんぎつねの会」(新美勝彦会長)が結成され、以来、同会を中心に毎年開催されてきました。

新美南吉の九十八回目の誕生日にあたる七月三十日(土)、新美南吉記念館で第十九回「あつまろう みんなの南吉展」が開催され、千人余りの人出で賑わいました。



# 新美南吉生誕100年 自主事業エントリー募集

現在、新美南吉生誕100年記念事業実行委員会では、平成25年を中心に行う主な記念事業の計画を進めていますが、その他にも、個人・団体・企業などが実施する事業を後援することで、新美南吉生誕100年を祝う輪を全国に広げ、より多くの方に南吉文学に親しんでいただきたいと考えています。

そこで、皆様が主体的に実施していただける記念事業を募集いたします。生誕100年まではまだ間がありますが、事前にエントリーをしていただき、全体計画への反映やスムーズな後援決定に役立てていきます。

■締め切り 平成23年**9月30日(金)**  
※その後も随時受け付けます。

■応募資格 新美南吉生誕100年記念事業の趣旨に賛同していただける個人・団体・企業  
※地域は問いません。

■実施期間 **平成24年7月～平成26年3月**に実施する事業

※平成25年のスケジュール（実施時期の参考にしてください）

- ・3月22日（金）南吉70回目の命日 ※法要が行われます
- ・7月30日（火）南吉100回目の誕生日 ※この前後に記念行事が多く行われます
- ・9月下旬～10月初旬「ごんぎつね」の舞台矢勝川に200万本の彼岸花が咲きます

■分野 分野は問いません。芸術、教育、スポーツ、自然、子育て、観光など、多様な分野とのコラボレーションを期待しています。

■対象外事業

- ・政治、宗教を目的とした事業
- ・公序良俗を乱す恐れのある事業
- ・その他、実行委員会が適当でないと認める事業

■後援内容

- ・後援名義の使用
- ・実行委員会が製作するチラシ、ホームページなどへの掲載
- ・プレスリリース（報道機関への情報提供）への協力

※特にふさわしいと認められる事業については、実行委員会との共催を提案することもあります。

■お問い合わせ・応募先

新美南吉生誕100年記念事業実行委員会（新美南吉記念館内）

TEL 0569-26-4888・FAX 0569-26-4889

E-mail: [nankichi@city.handa.lg.jp](mailto:nankichi@city.handa.lg.jp)

※応募用紙は実行委員会のHPからダウンロードできます。

<http://www.cac-net.ne.jp/~nankichi/100th/100th.html>



今から八年前の平成十五年。新美南吉生誕九十年のこの年にも、市民や企業等が主体となった記念事業が数多く実施されました。ここにその一部をご紹介します。

生誕百年には、さらに多くの方が全国で記念事業に携わっていただけることを願っています。

絵入り官製葉書「新美南吉の世界Ⅱ」贈呈式・丸型ポスト除幕式

南吉生誕九十年を記念して発売された絵入り官製葉書「新美南吉の世界Ⅱ」を半田市長に贈呈。あわせて幼年童話「たれのかげ」にちなんで移設された丸型ポストの除幕式も。

会場 新美南吉記念館  
主催 半田郵便局ほか

南吉没後六十年「南吉忌法要・南吉を偲ぶ会」

南吉にゆかりの深い光蓮寺で行われた法要と参加者の朗読による偲ぶ会。その後、募参りも。

会場 光蓮寺・北谷墓地  
主催 有志（代表呼びかけ

人・榎原義夫)

新美南吉生誕九十年にちなむペーパーアート展

絵入り官製葉書「新美南吉の世界Ⅱ」の原画など、ペーパーアート作家榎原澄香さんによる作品を展示。

会場・主催 半田郵便局

新美南吉生誕九十年展

岐阜県可児市在住の児童文学者・赤座憲久さん提供による小展示。

## 生誕九十年に行われた市民・企業等主催の事業

会場 可児市立図書館本館・帷子分館  
主催 可児市教育委員会・可児市立図書館

作品の原風景を探る版画展

作品の舞台や故郷の風景を描いた木版画の展示。

会場 ギャラリー「わっと」  
主催 半田木版画同好会

生誕九十年PRステッカー

知多半島で営業するタクシーと路線バスに生誕九十年記念ステッカーを貼って



▶合唱オペラ「ごんぎつね」

「ランドেমシノカナシミ」碑建立・除幕式

場所 新美南吉記念館  
寄贈 半田南ロータリークラブ

市民創作劇「花のき村と盗人たち」

南吉の第二の故郷、安城で上演された出演者・裏方公募による創作劇。

会場 安城市民会館  
主催 安城市（安城市市民会館自主文化事業）

南吉作品を写すところ

南吉作品を題材にした書展。記念行事として、長さ二十メートルの紙を用いた南吉作品の公開揮毫も。

会場 雁宿ホール  
主催 社団法人中部日本書道会半田支部

合唱オペラ「ごんぎつね」

有志が集まり、池辺晋一郎作曲の合唱オペラ「ごんぎつね」を上演。池辺晋一郎、谷川俊太郎（詩人）、新美南吉記念館館長（当時）によるトークも。

会場 雁宿ホール  
主催 合唱オペラ「ごんぎつね」上演実行委員会他

きぬうら川柳大会

生誕九十年を記念し、新美南吉や童話を課題に開催された川柳大会。

会場 雁宿ホール  
主催 ま・さ・ら

主催 川柳きぬうらクラブ

朗読劇「麦笛の教室」

女学校教師としての新美南吉を紹介する朗読劇。

会場 岡崎市甲山会館  
主催 安城高校桜町校舎教師の会

親子ふれあいウォーク「新美南吉の里めぐり」

主催 阿久比町立南部小学校PTA

講座「民話から児童文学へ」

新美南吉生誕九十年によせて」

会場・主催 京都市生涯学習総合センター

手話劇「ごん」

聴覚障害者と健聴者による手話劇。

会場 岡山県総合文化センターホール  
主催 岡山ろう者劇団「夢二」他

朗読会「南吉にあそぶ」

「手袋を買いに」「花を埋める」など南吉作品の朗読会。

会場 名古屋市天白文化小劇場  
主催 ま・さ・ら

# ポスター完成！ キャッチコピーは 初めての南吉 再び出逢う南吉

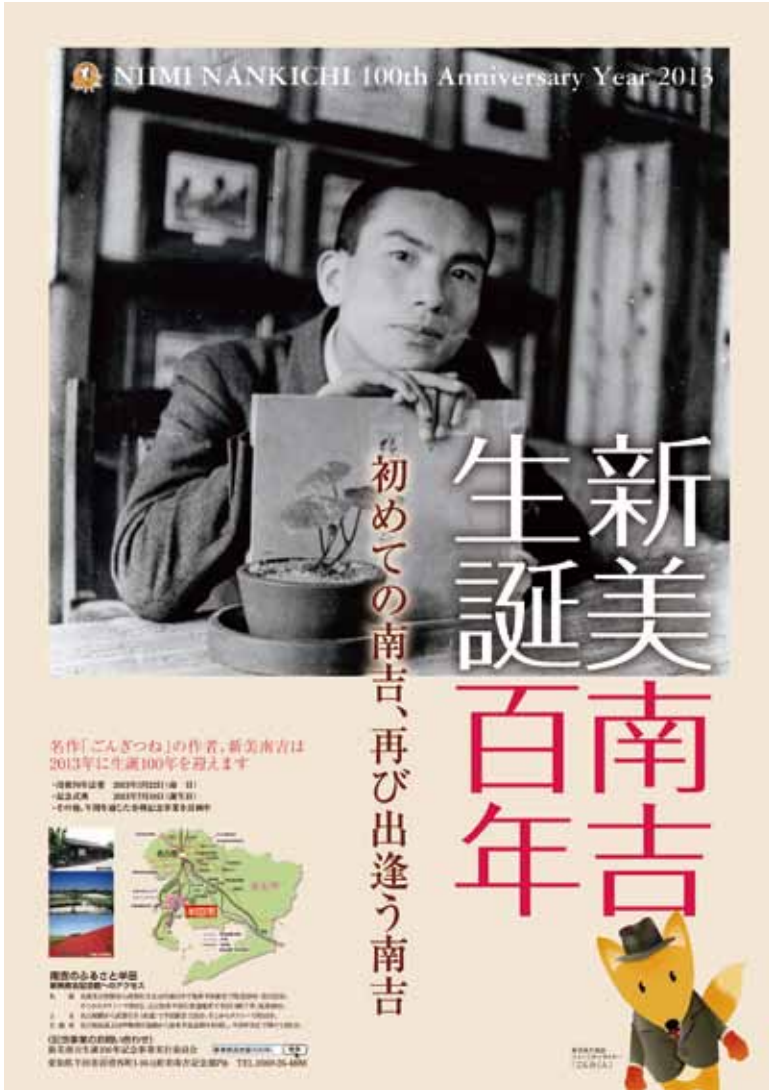
七月下旬、新美南吉生誕百年PR用ポスターの第一弾ができあがりました。

ポスターはB2判で、中央には「初めての南吉 再び出逢う南吉」の一行。これは、ポスター制作に合わせて決められた生誕百年記念事業のキャッチコピーです。

南吉作品を読む機会のなかった方やこれから触れる子どもたちには、生誕百年を機に「初めての南吉」と出逢っていただきたい…、子どものころに読んだきりという方には、「再

び出逢う」ことで子ども時代とはまた違った読み方ができる南吉作品の奥深さに触れていただきたい…、このキャッチコピーには、そんな願いが込められています。

ポスターは今後、市内の公共施設、学校、商店をはじめ、県内の各自治体とその図書館、全国の文学館や大学などに配布し、PRへの協力をお願いしていく予定です。



イメージキャラ  
愛称は「こん吉くん」



七月七日(木)、公募により選ばれた新美南吉童話イメージキャラクタの愛称が発表されました。

愛称募集には、全都道府県から二千百十四点の応募があり、審査の結果、「新美南吉と代表作の「こんぎつね」の双方をイメージでき、どの年代にも親しみやすい」という理由で「こん吉くん」に決まりました。

愛称発表の日はちょうど七夕。新美南吉記念館を訪れていた半田市立岩滑小学校の一年生七十三人が「こん吉くん」と呼ぶと、この日に合わせて製作された着ぐるみが登場。「かわいい」と子どもたちが歓声をあげるなか、笹飾りに短冊を付け、震災復興と生誕百年の成功を祈りました。

生誕百年に向け  
まだまだ続けます

新美南吉記念館の図書室では、毎月第四日曜日の一時半から「歌とお話の会」が開かれます。

これは市内小学校教諭の左近治樹さんと南吉研究家の小野敬子さん(茨城県在住)が、南吉生誕九十年の平成十五年四月から続けているもので、左近さんが南吉童話をイメージした自作曲の弾き語り、小野さんが南吉童話のストーリーテリングを披露します。

これまでの八年間には、雪で観客が一人もない時もありましたが、今では何度も足を運ぶ常連も。

七月二十四日(日)にはついに百回を達成。館長から感謝状を贈られた二人は、「生誕百年に向け、まだまだ頑張りたい」と抱負を語ってくれました。

